

東三河郷開拓団の経緯（年表）

2024. 4. 10現在

年 代	で き ご と
1932 昭7年	満州国建国宣言
1933 昭8年	満州移民計画発表
1936 昭11年8月	国策・満州移民計画20年間に100万戸送出計画決定
1937 昭12年	日中戦争勃発 12月南京事件
1938 昭13年	満蒙開拓青少年義勇軍第一次募集
	昭13/8/2 山吉田村分村計画樹立 経済厚生委員会 満州移民係設けられる
1939 昭14/1月	「山吉田村の再建 満州山吉田村建設の為に」冊子700部発行配付
	昭14/2/3 山吉田村分村計画を断念、満州東三河村建設計画に移行
	昭14/4/22 内地訓練開始（1ヶ月間）岡崎市美合の愛知県追進農場
	昭14/4/28 「満州東三河村建設計画要綱」拓務省が承認 国策参加となる
	昭14/6/4 先遣隊渡満 東安省密山県第5次 永安屯開拓団 へ入植 丘陵地帯
	昭14/9/1 町村長の視察団永安屯へ 乙種先遣隊募集割当不調の噂入る
	昭14/11/24 補充先遣隊の募集開始（山吉田3名のみ、全体でも14名）
	この頃 入植予定地（三合屯湿地帯）の変更を嘆願するも関東軍が拒否
1940 昭15/1/11	県職業課長が村長へ電報 入植地変更なくば絶対反対 （先遣隊の要望あり）
	昭15/2/8 補充先遣隊（14） チチハルで基幹先遣隊（20）と合流 34名
	昭15/2/11 龍江省甘南県平陽鎮地区（大平山村三合屯）へ入植
	昭15/3/25 （田中氏の手紙）開拓精神のある方をどしどしお送りください
	5月 （田中氏の手紙）松井参事官が匪賊の犠牲 帰国時に状況説明する
	この頃 家族召致始まるが、本隊送出進まず
	昭15年7月 6～8月 長雨で 収穫皆無 泥沼のような状態
	昭15年7月 家族を呼び寄せる（夏目兄弟、鈴木太一氏等）
	この頃 （田中氏） 山吉田村の有力者の前で実態暴露 7名満州へ戻らず 送出途絶
	昭15年10月 第9次三合東三河郷開拓団入植 古田キミエ氏（大陸の花嫁）等
1941 昭16年8/30	分村建設事業中止について山吉田村が県に申請
	昭16年 建設資材運搬 改修工事 農耕期に雨続き 頓墜病（無気力）まん延
	〃 長雨で収穫できず 羽谷一家逃げ出す：憲兵隊が保護
	昭16年12/1 愛知県：山吉田村に助成金一部返還命令
1942 昭17年	橋本克巳氏渡満 満蒙開拓第2次5カ年計画策定
	昭17年7月 隣接する満人地主所有の 高台の土地買収 、満州国より許可あり
	昭17年7月 青田接收（500町歩）の大罪悪に（滝川辰雄氏）
1943 昭18年	食糧増産供出で3等 関東軍から表彰される
1944 昭19年4/1	国民学校新築 総本部近く 寄宿舍へ入る（夏目昌儀氏）
	昭19年 召集令状届き始める サイパン島陥落 日本本土空襲本格化
1945 昭20年	召集令状ひっきりなしに届く
	昭20年5月 満州国3/4を放棄決定 朝鮮国境近くに軍司令部移動
	昭20年7月 国民学校閉鎖（橋本克巳氏）
	昭20年8/9 ソ連軍、国境を越え満州へ侵攻
	昭20年8/10 大本営「満州」の放棄可とする
	昭20年8/14 召集令状28通届く 外務省：居留民は出来る限り現地に定着させる方針を採択
	昭20年8/15 日本無条件降伏 これ以降開拓団の集団自決相次ぐ 逃避行始まる
	昭20年8/25 夏目幸夫氏 満人に惨殺される

	昭20年9/15	ソ連軍司令部 東陽鎮に置かれる 司令官来る
	昭20年9月	各地の開拓団で襲撃, 侵略受ける (匪賊, ソ連軍)
	昭20年9/18	本部付近に集結 本宮部落に18戸82名 (鈴木春三6, 小林宗一8, 橋本義一8, 滝川辰雄6, 夏目正夫7, 夏目富雄4, 鈴木伍一3, 山口一三3人)
	〃 10月中旬	三合屯から東陽開拓団へ移動 20km東 140余戸, 406人
	昭20年11月	橋本義一氏シベリアから逃げ帰る
1946	〃 12~2月	栄養失調, 発疹チフスで毎日死者
	昭21年2月	東陽開拓団食糧尽きる チチハルへ出発 (橋本氏家族)
	昭21年3月	三合屯へ戻る (滝川辰雄氏, 小林宗一氏, 古田一氏等40名)
	昭21年3月	三合屯から東陽鎮へ移動 (滝川辰雄氏等)
	昭21年3/16	G H Q 「引揚げに関する基本指令」 発令
	昭21年5/5	中国コロ島からの引揚げが開始
	昭21年5月頃	東陽鎮からチチハルへ移動開始 (約160km) (橋本義一8, 鈴木春三4, 山口2, 夏目兄弟11人)
	昭21年/7/7	橋本克巳氏父母死亡 夏目富雄等も発疹チフスで死亡 (吉野屋)
	この頃	滝川辰雄氏チチハルの吉野屋へ着く
	昭21年/8/22	日本人送還通知届く
	昭21年10月	引き揚げ 夏目幾世氏, 橋本克巳氏, 夏目昌儀氏
	昭21年12/3	引揚げ佐世保港へ 滝川辰雄氏以下258人
		段戸山裏谷の国有林の払い下げを願い出るも不調
1947	昭22年5月	裏谷分校を宿舎として強行入植
1948	昭23年	裏谷96haの払い下げ許可下りる 32戸入植 (東三河郷出身27戸)
		シベリア抑留者が帰還し入植 35戸 120名余になる
		家屋新築, 伐採跡地の開墾 田峯まで買い出し14km, 役場まで20km
		コロ島からの帰還者104万人, 使われた船762隻
	この頃	裏谷: 伐採立木がなくなり約半数が下山
1961	昭36	離農者続出したが補充入植者が入り, 54戸, 222人となる
1962	昭37年	段戸川左岸に幹線道路が完成。
1963	昭38年	18戸が和牛飼育による経営をめざす。
1967	昭42年	設楽町立裏谷小学校開校 (児童数25) 裏谷: 17戸, 86人
1971	昭46年5月	桜淵に拓魂碑が建てられる
1974	昭49暮れ	満州残留者里帰り (柴田まつのさん)
1975	昭50年9/24	満州残留者里帰り者6名 拓魂碑前で歓迎慰労会 会員60名参加
1978	昭53年4/2	総理府へ嘆願書提出 墓参計画の実行を 裏谷小再び分校に
1980	昭55年5/4	中国東北区死亡者遺族友好訪中団60名 (軍遺族23, 引揚げ遺族24)
1980	昭55年9/24	日中友好死没者慰霊訪中団
1990	平成2年9月	三友会: 旧東三河郷開拓団部落を訪れ, 残留8名と45年ぶりの再会
1997	平成9年	田峯小学校裏谷分校閉校 (児童数ゼロ)
2015	平成27	裏谷住民 12戸・25人
2024	令和6年3月	裏谷住民 9戸・25人 (設楽町HP) 開拓団入植関係は2戸 (現地聞き取り)

<参考文献>

(文責) 八名郷土史会 安形茂樹

愛知県史27, 愛知県開拓史, 設楽町誌 (村落史), 満州東三河村建設関係書類 (山吉田村)

この足で故国の土を踏みたい (瀧川辰雄), 満蒙開拓と歩み (夏目幾世), 愛知県における満州農業移民 (星野真久), 国策満蒙開拓に翻弄された人々 (愛知ユネスコブランチ・裏谷分科会)